

## もの言う牧師のエッセー 第262話 リオ・パラリンピック② 「五輪記録を超えた！」

ついに恐るべきことが起こった。何と健常者の記録を超える数字を叩き出すパラアスリートが次々と現れたのだ。まず、陸上男子1500メートル（視覚障害）では、リオ五輪の優勝タイム3分50秒00を上回る選手が4人も出た。五輪では、順位を巡る駆け引きでスローペースの展開だったが、目が不自由な走者が争ったパラリンピックではスタートから各走者は全力で走りまくり、最後の直線で逃げ切ったアルジェリア出身のアブデラティフ・バカ選手が3分48秒29でゴール。五輪の優勝タイムよりも約2秒近く速く、パラリンピックの世界記録となった。

続いてパワーリフティング会場。観客の大歓声の中、イラン出身の男子107キロ超級のシアマンド・ラーマン選手が、車いすに乗ってベンチプレスの台に向かった。この日、最後となる4回目は310キロを設定。ほぼ同じルールで競う健常者の最高記録を35キロ上回る。重りに対して少したわんだ「シャフト」と呼ばれる鉄の棒を胸まで下ろし、絶叫しながら2秒足らずで持ち上げた。大会前の自己ベストは296キロ。週5日の練習は全て300キロの大台をあげるために強化してきたが、自らの世界記録を大きく塗り替え、ついに大記録を達成した。

健常者との単純な比較はできないにしても、障害を乗り越えただけでなく、大きな偉業を成し遂げた彼らを見て、今から約2700年前のメシア預言、

**「闇の中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。あなたはその国民をふやし、その喜びをまし加えられた。彼らは刈り入れ時に喜ぶように、分捕り物を分けるときに楽しむように、あなたの御前で喜んだ。」**

**イザヤ書9章2-3節、**

が目に浮かんだ。ゴスペル（福音）とは一言で言えば復活のパワーである。それは癒されたり復帰したりだけで終るような小さなものではない。“活躍”するのである。それがキリストの救いの真髄なのだ。イエスを心から信じる者なら誰でも出来る。

2016-10-14

